

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

| | |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 名称：特別養護老人ホーム 片平長寿の里 | 種別：特別養護老人ホーム |
| 代表者氏名：田邊 亜佳音 | 定員（利用人数）：140 名 |
| 所在地：〒215-0023 川崎市麻生区片平1829 | |
| TEL：044-455-4188 | ホームページ： |
| 【施設・事業所の概要】 | |
| 開設年月日：1986年02月01日 | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 | |
| 職員数 | 常勤職員：59 名 非常勤職員：20 名 |
| 専門職員 | （専門職の名称）： 名 社会福祉士：6名 |
| | 介護福祉士：44名 看護師：6名 |
| | 介護支援専門員：11名 管理栄養士：1名 |
| | 理学療法士：1名 |
| 施設・設備 の概要 | （居室数） （設備等） |
| | 居室：一人部屋4室 設備：洗濯・乾燥室1室 |
| | 居室：二人部屋8室 設備：浴室6室 |
| | 居室：四人部屋20室 設備：機械浴室1室 |
| | 居室：ユニット型一人部屋40室 設備：一般浴室1室 |
| | 設備：脱衣室5室 |
| | 設備：調理室1室 |
| | 設備：食堂6室 |
| | 設備：医務室1室 |
| | 設備：静養室1室 |
| | 設備：トイレ36室 |
| | 設備：汚物処理室2室 |
| | 設備：デイ活動スペース1室 |
| | 設備：ボランティア室1室 |
| 設備：地域交流室1室 | |
| 設備：談話コーナー2室 | |
| 設備：居間4室 | |
| 設備：中庭3ヶ所 | |

③理念・基本方針

<理念>

- 1 充実した質の高いサービスの提供
- 2 地域に根ざした施設運営
- 3 職員の資質・能力の向上

＜基本方針＞

1. 利用者のみなさま一人ひとりの生活習慣や意思を尊重し、その方らしい生活が継続できるよう支援します。
2. 利用者の皆様が健康で安心して生活が送れるよう、嘱託医や協力病院と連携し健康管理を支援します。
3. 職員はいつも笑顔を絶やさず思いやりのある態度で接し、家庭的な雰囲気作りに努めます。
4. サービスの基本は人であり専門性の高いサービスを提供できるよう職員の資質の向上をはかります。
5. 地域に開かれた施設として、地域との交流を大切にし、地域に根ざし、地域社会の高齢者福祉に貢献します。

④施設・事業所の特徴的な取組

＜片平長寿の里の特徴的な取り組み＞

- 小鳥のさえずりが聞こえる緑の多い環境で穏やかに生活が送れる施設です。開所して12年、施設内はゆとりがあり明るく落ち着いた雰囲気が特徴です。
- 事業については、特別養護老人ホームと短期入所者生活介護があります。特別養護老人ホームについては、従来型とユニット型があり、利用者の好みや状況に合わせ居室の選択ができます。
- 短期入所者生活介護では、地域のケアマネジャーと連携を取り地域のニーズに合わせた事業を行っています。
- 地域の関わりについては社会福祉協議会会議に出席し麻生区や柿生地区の福祉のあり方について検討しています。今後は地域の自治会やボランティア団体と連携を強めていきたいと思っています。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|--|
| 評価実施期間 | 2022年10月14日（契約日） ～ 2023年04月17日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 1回（2014年度） |

⑥総評

【特別養護老人ホーム 片平長寿の里の概要】

●特別養護老人ホーム 片平長寿の里は、社会福祉法人川崎市社会福祉事業団（以下、法人という）の経営です。法人は、川崎市内に障害者施設（GH含め14施設）、相談支援センター（5）・地域包括支援センター（2）、高齢者施設（3施設）、児童施設（10施設）を幅広く運営し、福祉サービスにおいて地域に大きく貢献しています。法人は基本的な方向性として、「法人の魅力と強みを活かした質の高いサービスの提供と地域包括ケアシステム構築に向けた取組の推進」を目指しています。シンボルマークは、「温かさ、純粋な心、希望」を表す3色の輪を、川崎の「川」の字にデザインし、幸せの四葉のクローバーと「K（川崎）・F（福祉）・J（事業団）」の頭文字を配置して法人のアイデンティティとして確立しています。

●片平長寿の里は、小田急多摩線五月台駅から徒歩15分程度の丘陵地に位置し、木々の間から小鳥のさえずりが聞こえる緑豊かな環境にあり、利用者が穏やかにゆったりと過ごせる施設であり、明るく落ち着いた雰囲気が特徴です。設備では、開放感溢れる明るいフロント、皆が集える談話コーナー、緑が映える中庭が設けられ、広くて使いやすい共用部分や、洗面台付きユニット型居室等、明るく清潔な空間が確保されています。

●片平長寿の里は、特別養護老人ホームと短期入所生活介護の事業を実施しています。特別養護老人ホームについては、従来型とユニット型を設定し、利用者の好みや状況に合わせて居室の選択ができます。短期入所生活介護では、地域のケアマネジャと連携を図り、地域のニーズに合わせた事業を行っています。運営方針は、「利用者の意思を尊重し、その人らしい生活の継続を支援し、職員は笑顔を絶やさず、思いやりの態度で接し、家庭的雰囲気作りに努める」を掲げています。

●近年における新型コロナウイルス禍（以下、コロナ禍という）の中においても、専門性の育成・教育に貢献し、感染予防を徹底した上で実習生を受入れ、社会福祉士養成課程、音楽療法士の実習生の受入れを実現しています。特に、音楽療法士の実習については、利用者・実習生とのリモートを活用して安全に実施することができ、利用者の楽しみにもなりました。地域との関わりについては、社会福祉協議会会議に出席し、麻生区や柿生地区の福祉のあり方について検討・協議を図り、今後はさらに、地域の自治会やボランティア団体と連携を強めていく予定でいます。

◇特長や今後期待される点

1. 【職員の質の向上と職員間のチームワークの再構築】

片平長寿の里の最終命題は、利用者に対する専門的で質の高いサービスです。昨年度、命題の達成に向けて、「職員の資質の向上」と「職員間のチームワーク」に取り組みました。特に資質の向上に関しては、日頃の言葉遣いや対応等、接遇について振り返り、改善に向けて「高齢者虐待防止・身体拘束委員会」を中心に、委員が職員のチェック機能となり、利用者の思いに沿った支援の大切さを伝えて行きました。また、ユニット型フロアでは職員間のチームワークの体制作りの強化に向け、各フロア間において担当ユニット外の勤務に当たることにより、協力意識と職員間のコミュニケーションの機会となり、結果、チームワークの再構築につながる等、成果を出しています。これらの取り組みを通して、職員一人ひとりが利用者のニーズを少しでも多く受け止め、高い専門性へのステップアップにつながっていくよう、今後も継続して取り組んで行きます。

2. 【地域のケアマネジャとの信頼関係の構築】

利用者に対する専門的で質の高いサービスの取り組みとして、「地域ケアマネジャとの信頼関係の構築」です。特別養護老人ホーム片平長寿の里には3つの機能があり、事業として①従来型多床室、②ユニット型居室、③短期入所生活介護の3つがあります。従来型多床室は、利用料金の兼ね合いもあり待機者は順番待ちの状況にあり、ユニット型居室は利用料金が多床室より高く、短期入所生活介護については利用率の不安定さ等があります。短期入所生活介護でコンスタントに利用、安定を得るには居宅介護支援事業所の協力が不可欠であることを認識し、地域のケアマネジャとの情報共有と、迅速に施設内の各部署と調整を図る等、適切な実施の下、ケアマネジャとの良い関係性が構築できました。継続して、ケアマネジャと共に今後の利用者支援について考え、必要に応じて入所等の提案や、柔軟な対応に努めて行きます。

3. 【医療との連携強化と質の高いケアマネジメントの提供】

施設に併設している居宅介護支援センターでは、医療ニーズが高い利用者に対して、必要な医療が継続的に受けられるよう医師等と連携を取り、円滑なサービス調整を行っています。特に、看取りの時期が近い利用者へは迅速にサービスの提供とサービス調整を行い、在宅でその人らしい、安心した生活を最後まで送ることができるよう支援しています。施設同様に運営方針を共有し、利用者のニーズを少しでも多く受け止め、専門性の高さを1歩前へ進める活動の一環として、全部署での展開の事例として評価できる活動

と考えます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：特別養護老人ホーム 片平長寿の里

<評価（自己評価等）に取り組んだ感想>

今回、第三者評価を受審し、自己評価を行うことで、自分自身が行うべきことや施設として取り組むことなどがとても明確になった。

特に職員の人材育成については施設として力を入れていきたい項目でもあり、評価後のアドバイス等を踏まえて取り組んでいきたい。

<評価後取り組んだ事として>

1. ご利用者、ご家族アンケートから、機能訓練や活動にやや不満があるとの回答が多かったこともあり、次年度に向けて検討した。コロナ禍でPTの所属している施設等でコロナ患者が出てしまったり、当施設でコロナ罹患者が出てしまうことで機能訓練回数が減ってしまった。そのため次年度からはPT2名体制にし、突発の休みにも対応できるような体制を整えた。

2. 地域との関わりについては、近隣住民との交流の機会を持ったり近隣の施設と協働で地域の住民向けの研修を行うことが出来た。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり